

# 校長の顔が見える 学校経営



愛知県教育委員会

委員 岡田 豊 氏

## 教育随想



令和3年5月1日

# 5月号

発行・編集  
岡崎市教育委員会

### 今月の紙面

教育随想……………	1
愛知県教育委員会 委員 岡田 豊 氏	
この人に聞く……………	2
和菓子店 四代目 小野 悟 氏	
羅針盤……………	2
図工・美術科指導員 鳥居 光世	
ふれあい……………	3
梅園小学校 養護教諭 川端 匡子	
特集……………	4
おかざき匠の会	
お知らせ……………	6
フォト・ヒストリー…	8
岡崎聾学校との交流(昭和57年)	
この本を……………	8

敬愛する〇先生の話である。校長になりたての頃、「校長としての仕事の役割と責任は校長日誌を書くことである」と、先輩校長から励まされ、爾来学校での「ちよつといい話」を冊子にまとめ『折々の記』として版を重ねられた。〇先生は、「学校での出来事を書くということ、子供たちのこと、先生方のこと、教育のことを真剣に考えるひと時だ」と言われる。

校長に限らず教育に携わる者は日々そんなひと時をもち、思いを他に伝えたいものである。その一手段に「学級通信」がある。多くの教師がそれぞれ個性を發揮して学級づくりへの思いや、子供たちの「今」を伝えている。思えば私もかつて学級通信を出していたことがある。当時はまだガリ版刷りが中心の時代で

あった。空き時間の少ない日々の中で、子供たちの学校での様子を親に知らせることを第一義に、毎日発行することを自分自身に課していた。

愛知県では、本年度、「あいちの教育ビジョン2025―第四次愛知県教育振興基本計画―」を策定した。ふるさとあいちの文化・風土に誇りを持ち、世界的視野で主体的に深く学び、かけがえのない生命や自分らしさ、多様な人々の存在を尊重する豊かな人間性と「知・徳・体」にわたる生きる力を育むことを基本理念としている。その中の大きな柱とし

て「学校・家庭・地域の連携」がある。まずは学校が開かれた存在とならなければその実現は難しい。

〇先生の『折々の記』(第七集)から「学校経営への願い」を紐解いてみる。「教師の熱き思いと保護者の切なる願いを結びつける。生徒の豊かな企画力と行動力で校風を地域に広げ、地域の教育力を積極的に取り入れる。校長の顔が見える経営目標を立てる」。

コロナ禍二年目の新学期がスタートした。

(おかだ ゆたか)





### 和菓子の魅力を伝えたい

和菓子店 四代目 小野 悟氏

大正十一年創業の和菓子店を店主である三代目の父親と共に切り盛りしている。岡崎商業高校卒業後、東海市の和洋菓子店で修業し、一九九五年に家業に復帰。新商品の開発や、市内の小学校から高校まで、学校での出張授業等も精力的に行っている。

### 和菓子作りで大切にされていることとはどんなことですか

季節感をもつ和菓子は、人生の大切な場面に寄り添う使い方ができる日本の伝統文化だと思っています。だからこそ、今も一つ一つ全て手作りしています。特に粒あんや羊かんは薪を使って炊いています。薪の火で炊くと、熱が丸く伝わって炊きあ

がり、風味がとてよくなるんです。手作りで行うこととあん作りは特に大切に、代々続けています。――**伝統を守る上での悩みやご苦労はありますか**――

伝統地場産業は、どこも同じ悩みを抱えていると思いますが、うちの売り上げも右肩下がりでした。店に、若い方や子供はほとんど買いに来てくれない。何とかしたくてもどうしてよいか分からず、戸惑う日々でした。しかし、悩んでいるだけでは変わらないと思い、岡崎ビジネスサポートセンターへ相談に行きました。そこで、様々な人脈や業種とのつながりを使った新たな活動のアイデアをもらい、一気に動き出した感じです。その後、匠の会にも入会し、更につながりが広がりました。違う世界で活躍する人は、発想がとて面白くて刺激があり、私もどんどん新しい挑戦への思いが膨らみました。地元のイチジクや宮崎茶、岡崎おうはんの卵を使った新商品は、この頃開発しました。また、高校の調理科で和菓子作りの技能指導をしたり、小学校で伝統地場産業を守る者として授業をしたりする機会もできました。

### 授業で子供たちと接してみて、何を感じられましたか

「あんこは嫌い」と言っていた小学生が、うちの店であんの釜炊きを見

学したときのことで。目の前であんを詰めたたら焼きを渡すと、「おいしい」と言って喜んで食べてくれました。そのとき、経験不足からの食わず嫌いも多いのではないかと感じました。今の子の親世代が、既に和菓子離れの傾向にあります。それなら、逆に子供たちから家族に広げればと考え、子供たちに向けて、様々な形で積極的に発信していこうと思えました。また、今後は、ハンディキャップのある方と一緒に仕事をして、商品の背景にも価値のある和菓子を作りたいと計画中です。今、養護学校や大学の先生とも相談しています。思いが形になっていくことはやりがいがあり、どうなるのが楽しみです。

### 岡崎の子供たちにメッセージをお願いします

和菓子は日本の四季に触れられる素敵な文化です。せっかく日本に生まれたのだから、経験不足で嫌うのはもったいない。そして、何より、丁寧につつた和菓子はおいしいですよ。どんどん食べてみてください。



氏名 おの さとる  
生年月日 昭和四十六年九月十七日  
住所 岡崎市伝馬通

### 自分の作品や活動による喜びを見いだすことができる図画工科の授業

図工・美術科指導員

鳥居 光世



「絵の具で描いてみたい」「違うやり方を試したい」などと、子供が自分の思いをもつと、そこに豊かな創造活動が生まれる。では、子供がそのような思いをもつには、どうしたらよいだろうか。

小学校二年生の題材「えのぐじま」。授業の導入でA教諭は、大胆に渦を巻く作品や線が自由に波打つ作品など、前時に子供が線描きした作品を提示した。Bさんは「ぐるぐる」「くねくね」とつぶやき、筆を持って描くまねをした。作品の提示により、いろいろな線の描き方と絵の具で描く心地よさが想起され、「えのぐじま」を描きたい気持ちが高まった。筆を画用紙に押しつける感覚を楽しみ、点をたくさん描き始めたBさんを見てA教諭は、「いい感じだね」と活動を後押しする言葉をかけ、B





## ダンゴムシ王国

梅園小学校

養護教諭 川端 匡子

「給食が食べられないから、保健室に居させてほしい」と、担任と共に来室したAさん。うつむき、言葉を発しない。何も受け入れたくない拒絶と緊張感を全身から発していた。Aさんが抱えるつらさの原因に寄り添うために、まずはその緊張をほぐすことが必要だと感じた。三年生の十二月のことだった。

新年度、Aさんの行き渋りは激しくなった。「ママ、早く迎えに来て。学校いやだ」と保健室で泣き続けた。時を同じくして、保健室には、精神的に不安定な子供たちの来室が増えた。すると、ますますAさんが教室へ行こうとする気持ちは弱くなった。さらに、Aさんは、朝昼何も食べず、体重が激減していた。そこで、ケース会議を開き、担任、役職、保護者、SCと共通理解を図って、A

さんの状況に合わせた支援を行う体制を作り、進めていくこととした。

六月中旬、年下のBさんが環境の変化に対応できず、保健室に来るようになった。一人はすぐに仲良くならないAさんと、母と離れられなければならないBさんと、母と別れてからも泣き止まず、駐車場から動けないAさんと、母と離れられないBさんは、ともに保健室に入るこゝろができないでいた。そこで気分を変えようと「珍しいアジサイがあるんだって。一緒に探そう」と校庭の散歩に出た。そして畑の草取りをすることになった。すると、Aさんがダンゴムシを何匹か手に乗せて「これ、どうしよう」と聞いてきた。私としては「この中に入れてはどうかな」と、空き箱を渡した。すると二人は毎日ダンゴムシを探し始めた。その様子を見て、特別支援学級の子供たちも加わり、箱がどんどん増えていった。保健室にダンゴムシ王国が出来上がった。カブトムシやカエルが入った虫かごが並ぶこともあった。保健室がこれでよいのかとも思ったが、Aさんの笑顔が見られたので、目をつぶることにした。



この頃から「あまりパワー使ったら動けなくなる」「算数に行くためにパワーを残している」など、Aさんが体のエネルギーについて話すことが多くなった。お腹は減っている

と感じた。一学期当初、給食は「臭い」と鼻をつまみ、母が持たせる少量のお弁当も、私が握るミニおにぎりも避け続けていたが、二月、給食のきんかんを一個口にしました。久しぶりの給食だった。Aさんの心身にエネルギーが戻ってきていると感じた。

さんの表現活動に対する価値付けを行った。

制作活動の途中、「いろいろな描き方を使って」という学習課題から、表したいものを見つけて描いていたCさんの絵を鑑賞する機会を設けた。A教諭が「お話しして」と発言を促すと、Cさんは、「線がぐにゃぐにゃ細かったり太かったり、面白いと思って」と、自分の思いと作品を紹介した。Cさんへの意図的指名は、自分の発想や描き方と比べたBさんに、新たな気付きをもたらした。この鑑賞支援の後、Bさんは作品に線の表現も取り入れた。

授業の振り返りでBさんは、作品を見せ、「Cちゃんは、迷路島をつくっていたから、僕は、点々島。点々のところは通っていいけど、ここはだめ。そこを考えました」と語った。感覚的に描いていたBさんは、画用紙に描く点や線に自分なりの意味を見いだし、描きたいものを表現できた自分に満足する姿を見せた。

導入の工夫や子供の活動を励ます教師の言葉がけや新たな気付きを生む鑑賞が、子供に表現したいという思いをもたせ、その実現を支える有効な手だてとなる。子供自身が思いを形にできた実感で見いだす姿と言える。

# 今も生きる“匠の技”の継承と 新たなモノづくりへの挑戦～おかざき匠の会～

▶毎年五月初旬に行われるお茶摘み会（宮崎小）



匠の会代表  
「石彫の戸松」  
戸松政洋さんに聞く

匠の会の会員は、さくらまつり・ふじまつり・秋まつり、商工フェアなど、岡崎市内、また市外でも、伝統工芸を身近に感じてもらえるような体験イベントを行っています。

「モノ」は残ります。よいものを長く使ってもらえるような工夫を続け、これからも匠の会、そして岡崎の地場産業が発展し続けることを願っています。

岡崎市は、歴史豊かな町であり、東海道五十三次の宿場町、徳川家康公が生まれた城下町として古くから栄えてきた。そこには石工、花火師、鋳物師、また三河仏壇、和ろうそくなど、様々な伝統産業や地場産業が発展してきた。職人たちは、時代の流れの中で、自らの技を磨き、次代に伝えた。その流れは、脈々と受け継がれ、現代に至る。

そのような歴史の中で磨かれてきた匠たちの技を、後世に伝えるとともに、その卓越した技術力を活かした新しい「モノづくり」に挑戦することを目的として、平成十三年、「おかざき匠の会」が誕生した。

現在、匠の会には、石屋、三河仏壇、花火、節句人形、和ろうそく、矢作り、太鼓、三河木綿、八丁味噌など、様々な分野の職人、作家、クリエイターが、会員として参加している。職種の垣根を越え、今も生きる「匠の技」の継承と新たなモノづくりへの挑戦のため、日々、交流と連携を重ねている。

匠の会の活動としては、催事会場や大型店舗に作品を出展したり、制作実演を行ったりして岡崎の伝統産業を広く発信している。また、小学校における伝統工芸の学習、中学校での職場体験など、実際にも触れる体験を通して、子供たちに匠の技を肌で感じてもらうとともに、郷土への誇りと愛情を育むことにもつなげている。一方、通信網の発達や技術革新により、産業の変化は目まぐるしい。伝統を守ることだけでは、産業として成り立たない。そのため購入者のニーズに沿って伝統工芸を捉え直し、新たなモノづくりへの挑戦も始まっている。

伝統産業、地場産業の持続可能な発展を願い、伝統の継承と進化の融合を目指す「おかざき匠の会」は、岡崎のものづくりの過去と未来をつなぐ架け橋となっている。



# 今も生きる匠の技



▲世界にたった一つの手彫印章

業界では、機械化が進む中、伝統を守り、手間を惜みず、人の手だけで一つ一つを彫り上げる。



▲徳川家康公騎馬像（東岡崎駅前）

日本最大級のブロンズ像「徳川家康公騎馬像」には、伝統の三州鑄物の製法が生かされている。



▲長い歴史をもつ石工業

安土桃山時代からの匠の技を引き継ぐ岡崎の石工品は、国の伝統工芸品に指定されている。

# 匠の技の継承

受け継いできた技術や文化を次の世代につなげることは「匠の会」の目的の一つである。現在、様々なイベントを開催したり、市内小中学生の見学・体験活動や、匠の会会員が学校を訪問して行う講演・体験活動を行ったりするなど、幅広い活動に取り組んでいる。



▲イオンカルチャーフェスティバルでの植え込み体験

伝統工芸を体験できるブースやワークショップを開き、岡崎の伝統産業や匠の会の活動を多くの市民に知ってもらう場となっている。



▲特産品「八丁味噌」の味噌蔵見学（連尺小）

江戸時代から始まった味噌の作り方を今も大事に守っているところがすばらしいと思います。（連尺小児童）



▲石工団地での石の加工体験（城南小）

石工団地で働く人にインタビューをしたり、実際に石の加工を体験したりしたことで、職人さんたちの技のすばらしさや伝統を守ることの大切さを知りました。（城南小児童）

三浦太鼓さんから、心で太鼓をたたくことの大切さを教えてもらいました。また太鼓で自分の気持ちを表現できることも教わりました。（南中生徒）



▲匠の技を学び、披露する生徒たち（南中）

# 新たなモノづくりへの挑戦

これまで培ってきた匠の技を継承するとともに、新しい時代のニーズにも対応していくために、他業種とのコラボレーションを図り、新しい商品を生み出す試みが始まった。「失敗から、新しい視点が生まれる」というコンセプトの基、「ミライおかざき匠プロジェクト」として、岡崎の伝統産業は新しいかたちを模索している。



▶和太鼓専用グローブ

和太鼓の女性演奏家が増えていることから、そのニーズを受け、皮革製品事業を展開する会社と協力して開発された商品。



●表彰

◆第五十二回愛知県春季少年剣道大会

○中学男子の部

二位

矢作中

○中学女子の部

二位

矢作中

◆二〇二〇年度水質パトロール隊事業(愛知県)

【優秀賞】 矢作北中 科学部

◆第三十三回中部日本個人重奏コンテスト本大会

〈中学校部門〉

○重奏の部

打楽器五重奏

【金賞】 竜海中

○重奏の部

打楽器六重奏

【銅賞】 北中

◆第三十二回読書感想画中央コンクール

○中学校の部

【奨励賞】

六ツ美中 萩原 光希

◆二〇二〇年度水質パトロール隊事業

【優秀賞】

矢作北中

●令和三年度校長会役員

〈中学校長会役員〉

会長 伊豫田 守(竜海中)

副会長 小田 昌男(岡崎小)

顧問 大西 和夫(矢作北中)

小島 寛史(岩津小)

酒井 智幸(甲山中)

萩須 文裕(葵中)

倉地 耕治(豊富小)

中野渡善樹(城北中)

吉田 章二(竜美丘小)

石川 敏幸(常磐中)

石原 真吾(大門小)

加藤 有悟(南中)

児玉 洋行(翔南中)

片桐 徹(藤川小)

高嶽 利行(城南小)

赤崎 類子(奥殿小)

小田喜代美(三島小)

近藤久美子(常磐小)

大西 裕子(美合小)

高橋 誠(六ツ美部)

丹羽 郁人(北野小)

細井 太郎(夏山小)

清水 良隆(矢作西小)

溝口 了実(岩津中)

今枝 武司(東海中)

近藤 浩之(河合中)

柴田 和美(北中)

小田 哲也(新香山中)

伊澤 勉(六ツ美中)

会長 小田 昌男(岡崎小)

副会長 小島 寛史(岩津小)

酒井 洋一(連尺小)

片桐 徹(藤川小)

倉地 耕治(豊富小)

石原 真吾(大門小)

守(井田小)

会長 大西 和夫(矢作北中)

副会長 萩須 文裕(葵中)

溝口 了実(岩津中)

今枝 武司(東海中)

石川 敏幸(常磐中)

小田 哲也(新香山中)

山内 貴弘(矢作中)

〈専門委員会〉委員長

法制 天野 孝志(六ツ美北中)

教育条件 平 任代(竜南中)

学校経営 岩瀬 竜弥(六ツ美部)

進路 山内 貴弘(矢作中)

保体 今枝 武司(東海中)

福安 保田 眞美(山中小)

給食 長谷川勝一(額田中)

生徒指導 柴田 和美(北中)

特別支援 柴田 昌一(広幡小)

広報 磯村 彰久(福岡小)

●本年度の特別委員会

本年度は以下の十四の特別委員会を設置し、岡崎市の教育活動の充実・発展を図る。

【月報「岡崎の教育」編集委員会】

長 丹羽 郁人(北野小)

副 長谷川勝一(額田中)

【教職員の研修検討委員会】

長 倉地 耕治(豊富小)

【教員研修必携編集】

長 倉地 耕治(豊富小)

【教職員の研修検討委員会】

【新任教師の集い企画・運営】

長 岩瀬 竜弥(六ツ美部小)

【新しい学校デザイン推進委員会】

長 今枝 武司(東海中)

副 宇都木靖弘(細川小)

【新しい学校デザイン推進委員会】

【教職員の意識調査】

長 安藤 眞樹(美川中)

副 寺島 眞澄(六ツ美部小)

【岡崎版コミュニケーションスクール推進委員会】

長 夏目 弘之(六ツ美部小)

【SDGs推進委員会】

長 加藤 有悟(南中)

副 坂元 干城(六名小)

【ICT教育推進委員会】

長 森 竜師(福岡中)

副 岡 秀之(羽根小)

【郷土読本編集委員会】

長 石原 真吾(大門小)

副 中西 勉(男川小)

【授業改善委員会】

「個別最適化教育研究」

長 牧野 守(井田小)

【授業改善委員会】

「教育課程実施状況調査」

長 磯村 彰久(福岡小)

【補助教材検討委員会】

長 竹平 眞仁(矢作北小)

【英語が話せるおかざきっ子研究委員会】

長 石川 敏幸(常磐中)

【教員免許更新特別委員会】

長 佐橋 康仁(宮崎小)

●本年度の学校訪問

○岡崎市教育委員訪問

連尺小学校 五月十三日(木)

本宿小学校 六月二十四日(木)

矢作南小学校 九月十六日(木)

新香山中学校 十月二十二日(木)

葵中学校 十一月十一日(木)

豊富小学校 一月二十日(木)

小豆坂小学校 二月三日(木)

○指導員合同訪問

梅園小・岩津中

六月十七日(木)

大門小・東海中

二月十八日(木)



令和2年度 岡崎市教育研究論文 入賞者

■小学校個人の部

最優秀賞

教科名	学校名	氏名	主 題
体 育	広幡小	中野 翔太	体育の見方・考え方を育むために、対話的に学びを深め、自らの意思で判断・実行していく子供の育成

優秀賞

特別支援教育	美合小	酒井久美子	日常生活と学習との結び付きを実感できる生活単元学習の追究
生 活	六名小	中西 歩澄	主体的な活動を通して、事実と思いを表現し、気付きを高める子どもの育成
生 活	三島小	勝本ゆき子	主体的・協働的な学びを通して、共によりよく生きようとする子供の育成
国 語	竜美丘小	鈴木 幸太	学びを楽しみながら伝え合う力を伸ばす国語の授業の工夫
体 育	竜美丘小	加藤 雅也	踊ることの楽しさや特性にふれる中で、技能を高めることができる体育学習
道 徳	竜美丘小	稲垣 拓大	思いやりの心を育む道徳教育
体 育	連尺小	佐宗 敬泰	仲間と協働し、戦術的気付きを深め、できる喜びを味わうことのできる子供の育成
書 写	広幡小	小川 貴子	主体的に学び、深め、広げていく書写の学習
外国語活動	広幡小	繁原 悠太	英語で自分の思いを伝え合う児童の育成
算 数	福岡小	吉形 友亜	学ぶ楽しさを実感し、自分の考えを説明できる子の育成
社 会	常磐東小	福田しのぶ	主体的に学び、よりよい社会づくりへの参画を目指す社会科の授業
理 科	細川小	日下部教子	科学的現象を多面的に捉え、他者と関わりながら問題解決に取り組もうとする子の育成
算 数	城南小	濱中 利矩	問題解決の過程を大切にすることを通して、数学的な見方・考え方を働かせて考えることができる児童の育成
体 育	城南小	松崎 俊介	仲間と関わりながら、ゲームに主体的に取り組む児童の育成
国 語	六ツ美西部小	山中 隼	物語の内容を正確に理解し、端的に伝える子供の育成
社 会	豊富小	中西 悠	ふるさとの社会的現象に関わる課題を自分事として追究する子供の育成
社 会	夏山小	安原 宏紀	仲間との交流を通して、課題を多面的に捉える児童の育成
学校保健	形埜小	向井 麻由	自分に合った電子メディアとのつきあい方を考え、健康な生活を送ることのできる子の育成

■中学校個人の部

最優秀賞

教科名	学校名	氏名	主 題
保健体育	竜南中	松本 良太	保健体育科の見方・考え方を働かせた深い学びの構築

優秀賞

数 学	美川中	河上 翔太	数学的な見方・考え方を働かせながら学びを深める生徒の育成
社 会	東海中	太田 信	仲間とかわりながら、よりよい社会づくりへの参画をめざす社会科の授業
国 語	河合中	吉岡英里奈	描写への関心を高め、見つけ、表現できる生徒の育成
国 語	六ツ美中	石田 勝重	だれもが楽しく、わかる授業を目指して(6年次)
社 会	北 中	平岩 大督	仲間と関わりながら自分の考えを構築し、考えを伝え合う生徒の育成
総 合	額田中	鈴木 広樹	「学びに向かう力」を引き出す教師の出
国 語	翔南中	石川 俊之	未来をたくましく生きる力を育む国語科の授業

■共同の部

最優秀賞

教科名	学校名	氏名	主 題
教育全般	額田中	現職研修部 代表 永井 利昌	「学びに向かう力」を発揮する生徒の育成

優秀賞

教育全般	羽根小	現職研修部 代表 杉浦 有子	プログラミング的思考育成からはじめる創造的に学ぶ子の育成
教育全般	三島小	研究推進部 代表 日置 正敏	主体的・対話的な学びを通して思考力・判断力・表現力を育み、よりよい生き方を目指す子どもの育成

〈論文入賞者数〉

賞	最優秀	優秀	佳作	合計/応募数
小学校 個人	1	18	63	82 / 197
中学校 個人	1	7	25	33 / 77
小中学校 共同	1	2	3	6 / 15
合 計	3	27	91	121 / 289

佳作

国 語	梅園小	川口 真生	理 科	生平小	水谷 真夢
国 語	梅園小	岡田 優希	総 合	生平小	中島 翼
家 庭	梅園小	本郷 水紀	体 育	常磐小	太田 志穂
国 語	根石小	今泉 雄大	国 語	奥殿小	内堀 麻衣
国 語	根石小	福永えりな	社 会	細川小	杉浦 功宜
社 会	根石小	松浦 圭祐	外国語活動	細川小	鈴木 睦子
学校保健	根石小	斎藤優亜子	国 語	岩津小	出村 柗大
図画工作	美合小	戸田 優花	生 活	岩津小	小川 昇汰
体 育	美合小	落合 湧也	社 会	大樹寺小	星野 智史
特別支援教育	美合小	池田 康江	算 数	大樹寺小	柴田 博巳
音 楽	羽根小	出真 菜香	理 科	大樹寺小	玉腰 理江
体 育	羽根小	片岡 沙織	社 会	大門小	田中章太郎
学習情報	羽根小	手嶋 夕菜	算 数	大門小	香名 和貴
算 数	岡崎小	筒井麻由加	理 科	大門小	金澤 徹
外国語活動	岡崎小	立石安祐美	算 数	矢作北小	植村 知史
体 育	六名小	豊田 操平	図画工作	矢作北小	杉山 和泉
外国語活動	六名小	安藤 翔太	理 科	六ツ美西部小	近藤 智也
道 徳	六名小	石田みのり	国 語	城南小	酒井 孝康
体 育	三島小	新村 栄基	国 語	上地小	杉本 光
学校保健	三島小	鈴木 滋子	特別支援教育	上地小	明石満百実
体 育	竜美丘小	藤田 茜	国 語	小豆坂小	戸林 凌
生 活	連尺小	木里 悠乃	国 語	小豆坂小	羽原茉莉愛
図画工作	連尺小	河合 教恵	社 会	小豆坂小	矢澤 舞
算 数	広幡小	里見 涼多	算 数	小豆坂小	松本紗那香
国 語	井田小	福田 淳也	学習情報	小豆坂小	鈴木 由理
社 会	井田小	岡田 琴	算 数	北野小	鈴木 望海
体 育	井田小	落合 志帆	算 数	六ツ美西部小	鈴木沙也加
体 育	井田小	伊奈 亨	総 合	豊富小	海藤 健児
生 活	愛宕小	生駒 謙次	体 育	夏山小	原山 昇士
体 育	竜谷小	谷口 瑞季	音 楽	宮崎小	鈴木 美沙
算 数	山中小	安藤 怜菜	学校保健	宮崎小	渡邊 美奈
生 活	本宿小	矢澤 花歩			

佳作

国 語	甲山中	鈴木 慶輝	英 語	矢作北中	天野真理子
保健体育	甲山中	浅岡 哲平	理 科	新香山中	岩瀬 美瑚
道 徳	甲山中	吉井 裕規	美 術	新香山中	杉浦 貴恵
社 会	竜海中	新實 弘章	学習情報	竜南中	中山美奈子
英 語	竜海中	武井 翔	保健体育	六ツ美北中	森 友輝
保健体育	東海中	石原 薫子	国 語	額田中	三井 靖子
英 語	東海中	天野 圭祐	社 会	額田中	福田 忠大
英 語	岩津中	古山 美紀	英 語	額田中	加藤 星也
社 会	矢作中	中根 良輔	道 徳	額田中	松山 衣里
学習情報	矢作中	長谷川誉幸	理 科	翔南中	柴田 翔平
英 語	六ツ美中	伊奈由紀乃	技術・家庭	翔南中	水越 裕介
生徒指導	六ツ美中	石川 定次	総 合	羽根小	内田 裕斗
数 学	矢作北中	和多田真親子			

佳作

教育全般	広幡小	現職研修部 代表 加藤 良彦
教育全般	竜谷小	現職教育研修部 代表 前田 康幸
総 合	城南小	6年生部会 代表 松崎 俊介



・カ  
ツ  
ト  
  
井  
田  
小  
岩  
田  
恵  
子

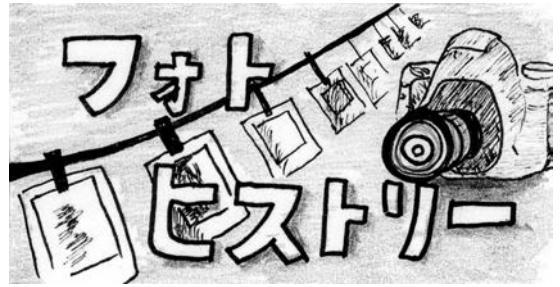
# 岡崎聾学校との交流 (昭和57年)

写真提供：岩津中学校

写真は、岡崎聾学校と岩津中学校の生徒が交流する様子である。学校の文化祭を互いに訪問し合い、その後、両校の生徒作品の交換展示も始まった。

岩津中学校は、昭和五十六年より岡崎聾学校と交流を開始した。豊かな心を育むための重要な活動と捉え、様々に形を変えながら四十年間続いている。本年度は、二年生がオンラインによる交流を行った。手話や指文字を使って、自己紹介やしりとり、ジェスチャーゲームなどをして楽しんだ。

共に尊重し合い、協働して生活する態度を育む教育の継続が、誰もが活躍し、互いを支え合うことのできる社会の実現につながるはずである。



土地の利用方法は場所によって異なる。時代とともに田畑の面積は減り、見える景色も、人々の生活も変化した。

初めての田植え体験。子供たちは戸惑いながらも、仲間と力を合わせ、田植えに打ち込む。土の匂い、手にした苗の感触はきっと忘れないだろう。子供たちの周りには学びの可能性が広がっている。

## どホ

## 臈月



▲田植え(緑丘小)

保守的な考えや、今の取り組みに留まっているだけでは、前に進めない。

伝統産業を受け継ぐ和菓子職人は「次世代を担う子供たちに発信する」ことで現状を乗り越えようとしていた。動き始めた老舗菓子店には、親子連れや高校生の客が増えたそうである。

## ツ

積み重ねられた歴史。匠には、長きにわたり、伝統を受け継ぎ、守り続けてきた確かな技がある。

伝統を守り、さらにそれを進化させ、未来につなぐ。守ることも、創造することも、常に前を見て挑戦する。その心は、着実に次世代へと受け継がれていく。



\*2040年の未来予測 成毛 眞  
日経BP ￥1,700

心に残った一文  
テクノロジーの革新を知り、バカにするか、チャンスにするかは自分次第だ。

「今日」には、これから起こることの萌芽がある。現在を見つめれば、未来をつかむことはできる。時代の潮流に乗って発展を遂げた元日本マイクロソフト社長の著者は語る。本書には、あらゆるデータから導き出されるありのままの20年後の未来予測が淡々と記されている。

近未来に描かれていた「GIGAスクール構想」は、新型コロナによって加速した。ICT教育を推進するにあたって乗り越えなければならないハードルはいくつかあるが、この機会を「バカにするか、チャンスにするか」は教師次第だ。

- \*対話の技法 納富 信留 ￥1,400  
笠間書院
- \*学びの「エンゲージメント」 櫻井 茂男 ￥1,980  
クレイス叢書
- \*子どもの心の受け止め方 川上 康則 ￥1,300  
光村図書出版
- 山本 則夫